

令和7年度 生涯学習推進施設運営委員会議事録(議事骨子)

日 時：令和7年12月1日(月) 13:30—15:30

場 所：いわみーる 302研修室

区 分	内 容
出席者	<p>《事前配付資料》</p> <ol style="list-style-type: none"> 運営委員会 次第 令和7年度島根県生涯学習推進施設運営委員会名簿 資料 <ul style="list-style-type: none"> 【資料1】令和7年度 研修実績一覧 【資料2】「親学プログラム」の活用・普及状況 【資料3】「地域魅力化プログラム」の活用・普及状況 【資料4】市町村等支援 支援状況一覧 【資料5】情報紙「しまねの社会教育だより」について 【資料6—1・2】学習情報提供・教材貸出・放送大学について 【資料7】令和8年度 人材養成研修計画(案)について <p>(同封物)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 島根県立生涯学習推進施設条例施行規則 <input type="checkbox"/> 生涯学習推進施設運営委員会規則 <input type="checkbox"/> 令和7年度公民館等実態調査(中間報告) <input type="checkbox"/> 『親学プログラム』『地域魅力化プログラム』リーフレット <input type="checkbox"/> 「しまねの社会教育だより 40,41号」 <p>《当日配付資料》</p> <ol style="list-style-type: none"> 席次表 <p>(委 員)</p> <p>大地本由佳 委員 大野 公寛 委員 大橋 覚 委員 岡本 紀子 委員 水津 旬司 委員 花田 健司 委員 原 敦代 委員 山中 慎嗣 委員(委員長) 山根久美子 委員</p> <p>(事務局)</p> <p>三島 伸仁 東部センター所長 青山 征司 西部センター所長 福島美奈子 総務課長 藤井 伸治 社会教育主事 小倉希一郎 社会教育主事 久佐日佐志 社会教育主事 青木 悠介 社会教育主事 井上 佳子 学習相談員 渡辺紀美枝 学習相談員</p> <p>※欠席 黒目 教子 委員</p>

<p>【報 告 事 項】</p>	<p>(1)令和7年度の事業実施状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 人材養成研修[主催講座]について ② しまね学習支援プログラムの取組状況について ③ 令和7年度公民館等実態調査について ④ 市町村支援の状況について ⑤ 情報紙「しまねの社会教育だより」について ⑥ 学習相談・教材貸出・視聴覚センター・放送大学について
<p>【質疑・応答】</p> <p>山中委員長</p> <p>久佐社会教育主事</p> <p>山中委員長</p> <p>三島東部所長</p>	<p>親学の研修実施回数を見ると、コロナ以降徐々に回復しているようにみえるが、コロナ以前と比べると戻っていない。今後の見通しはどうか。</p> <p>時間がたち、コロナ前活躍していた親学のファシリテーターの年齢が上がった。また、コロナで活動をやめてそのまま現場から離れた方もいる。そのようなことからニーズに対応することが難しくなってきた面がある。もう一つ、コロナで親学を使った研修が中断されたことをきっかけに、ICTなど新しい教育課題や社会の変化に対応するものに内容が変わってきた面がある。周知を強化しなければならない。大田市は「親学」という名前ではなく市町村独自の名称にし、市の取組として行っている。ファシリテーターの養成を含め、センターと市町村が一緒になって普及しなければいけないと思っている。</p> <p>次世代のファシリテーター養成の必要がある。新しい社会課題や問題が出てきているが、新しいプログラムや応用プログラムとかどうなっているのか。それと、自分が県社会教育課に在籍していた頃もだが、今も県の家庭教育支援は親学1本状態なのか。</p> <p>「しまねの社会教育で大切にしたいこと」（令和3年3月作成）が出ている以上、「しまねの家庭教育支援で大切にしたいこと」を出すなど、いつまでも親学1本ではいけない、ということは県社会教育課にたびたび言うが、なかなか動いてくれない。センターが頑張れば新プログラムはできるが、そうすると「待っていれば県から何かやってくるだろう」になってしまう。それでは今までと変わらないので、オリジナルプログラム作成をサポートする支援策を考えている。市町村担当や実践者を対象にしている。そして、プログラム作成を目的に協議をするなかで、そこからアウトリーチとかサロンとかいろいろ広がっていくのではないかな。新しいプログラム</p>

	<p>をきっかけに、家庭教育支援の次の一手に結びつく手助けができたかと考えている。</p>
山中委員長	<p>なかなかレベルが高く、派遣社会教育主事にも関わることもかもしれないが頑張ってもらわないといけない。</p>
大橋委員	<p>以前は一担当として邑南町で親学をしてきたが、今はなかなか親学が実施されていると感じられない。やはり県のリーダーシップは期待したいし求めたい。市町村の自力では難しいと思うので県と市町村両輪でお願いしたい。</p>
原委員	<p>今必要なのは顧客目線ではないか。「新しいもの」をではなく、「必要とされているもの」が大事。顧客が求めているものをリサーチするシステムの構築が必要ではないか。特に親学では。</p>
岡本委員	<p>浜田市のフープのプログラムは対象も明確で参加しやすい。資料では益田市が0になっているが、地域の総会などいろいろな場で行っている。ファシリテーターもコーディネーターのレベルも高い。親学プログラムに絞らず調査を行った方がいいのではないかな。</p>
花田委員	<p>昨年度のこの会で「研修の名称や募集方法の検討」について意見が出た。今年度、それが具現化されており素晴らしい。西部センターの市町村支援の中でコミュニティスクールに関する支援について教えてほしい。</p>
久佐社会教育主事	<p>邑南町では、調整機能を担う公民館主事に、まずコミュニティスクールとはどういうものなのかということから説明した。ふるさと教育をはじめとする県事業と、コミュニティスクールという国の動きを整理してほしいということで支援した。浜田市でも支援している。コミュニティスクールそのものというより、調整を担っているところへの支援、研修となっている。</p>
花田委員	<p>今後、学校運営協議会は何をするのか。目指す子ども像の共有とか役割はわかったが、具体的に何をするのか。長浜小ではまちづくりセンターの方が何をするのか具体的なことについて、参加型学習を使いながら明らかにしてくれるのでとてもスムーズ。学校現場はこういうものを求めていると思う。浜田市の派遣社会教育主事も熱心なのでセンターとも協力しつつ、コミュニティスクールを拡げることができないか、という話を関係者にしたい。</p>
山中委員長	<p>コミュニティスクールについて社会教育主事の人的支援と併せ、学習情報あるいは学習支援等の情報による支援が必要ではないか。公民館において予算が少なくても地域が賑やかになる事業を組めるところや、大きい規模</p>

	で成果を上げている館などの情報も収集できればいい。あるいは活発な PTA の情報収集もあっていい。ほしいけど手が届かない情報をセンターが提供できないか。
大野委員	情報提供に関してはニーズがあるだろうということを感じている。市町村を超えた情報共有、情報蓄積がシステム化されるといい。どの研修も満足度、意欲向上の高い数値がアンケートから読み取れるが、その後の行動をどう評価していくのか、質的評価を考えていく必要がある。
三島東部所長	継続評価の必要性は感じている。今年度、新規で過去の受講生を対象に「研修受講生フォローアップ研修」を行う。出欠具合でその後がわかってくる面もあるだろう。出席者の実践を県内に情報提供するとともに、欠席者には改めて意欲を高める手立てが必要と感じている。
青山西部所長	大野委員から質的評価の方法や分析の仕方を教えていただきたいし、一緒に考えていくことをお願いしたい。
大野委員	一緒に考えていくことは面白いと思う。ファシリテーター養成講座で地域住民役を募集しているが今年からか。いい結果がでたのか。
小倉社会教育主事	東部は初めて。西部は3回目。地域住民として参加した方が、翌年度、本講座を受講したり、本講座を過去に受講した方が地域住民として参加してアドバイスしたりするなどつながりが出ている。
久佐社会教育主事	人数が増えることで実際の現場感覚に近づき、緊張感があると発表者は言っている。また、受講者と住民役が情報交換をしている。ただ、募集する時、地域住民役という表現でなく「参加型学習を体験」にし、単なるお手伝いでなく、次の研修につながる募集がいいのではないかと話をしている。
大野委員	親学プログラム、地域魅力化プログラム、研修の内容等、中身の見直しはどのようなタイミングを考えているのか。
三島東部所長	親学プログラムは確かに古いところがある。我々も見直しをしようと考えたが、現場で修正できるレベルも結構ある。それなら、現場で変えるついでにもっとそれぞれの現場に合わせたプログラムを自分たちで作ってほしい。今後はそういう動きをサポートできる支援を行っていきたい。
大野委員	ニーズをキャッチする仕組みがあるといい。まだ見ぬ社会教育のニーズがどんなところにあるのか考える場や機会を作ってみるとか、先進事例を把握し研修にいかすとか、情報収集から研修を練り上げる仕組みがあるといい。

久佐社会教育主事	実際の親学プログラムでは時間配分において、それぞれの事情によりアレンジして使われている。そういうアレンジをして各市町村で使っていただくことが現実的ではないか。
藤井社会教育主事	親学プログラムの状況調査からもアレンジして使用していることが見て取れる。講師選定では書籍なども参考にし、タイムリーな方を選ぶようにしている。アンケートでは「実践意欲が高まったか」という項目を大切にしている。この項目の評価を通じて内容がどうあるべきか考えている。
大地本委員	市町村支援に加え市町村の団体にも支援があるのはありがたい。社会教育施設職員だけでなく、地域人材の支援も続けてほしい。研修を受講して意欲が高まるのはいいことだが、現場に戻ると館長とか経験が長い職員もいる。なかには学ぶ意欲のない人もいる。研修を何回受けたか、という調査はあるのか。
青山西部所長	施設を対象として調査しているが、個人状況はとっていない。
大地本委員	意欲は高まったが、各所属に戻りくじかれることがあるように感じる。
岡本委員	益田市では経験年数や受講状況をチェックするようになったので、意識の差が埋まるのではないかなと思う。地域課題支援というより地域組織そのものに支援してほしいレベルもあるが、派遣社会教育主事が全部回るのも難しい。自治体の役目だが県も配慮してほしい。意欲のある館長の時は地域全員で解決するみたいな意欲があるが、人が変わると・・・というのはこの世界でよくある。
原委員	優良事例は各団体レベルでなかなか見に行くことができない。県が全県に呼び掛けて、自己負担で希望者を募集するというのはどうか。社会教育委員、公民館関係者、教員、様々な立場の方が一緒になって見学し話し合うというもの。
山中委員長	現地に行くと地区の風を感じ、当事者だけでなく周辺の関わっている人の話も聞くことができる。講師として来てもらうことはすでにやっているの、現地に行く長所もある。
大地本委員	親学プログラムのアレンジしたものは、どこかに集約されているのか。
小倉社会教育主事	センターで集約しているが、実施した結果や効果までは聞いていない。
大地本委員	データベースとして集約すれば、新しい課題に対応するアイデアが集まり、市町村のアレンジの参考になると思う。

<p>山中委員長</p>	<p>続いて令和８年度の研修計画案を説明してほしい。</p>
<p>三島東部所長</p>	<p>まず、今年度、サン・レイクが大規模改修に入っていたが、来年度は東部研修の多くは通常どおりサン・レイクで実施する。「社会教育委員・担当者研修」について、我々としては変えていきたいので、時期と場所を共催の県社連と相談し決定したい。県社連理事会が１月下旬に予定されているのでそこで諮りたい。「公民館等職員実践研修」は今年度より県の事業を受けた場合は受講が必須となっている。「公民館等職員課題別研修」は実態調査に基づき「多世代交流」を予定している。「研修受講生同窓会」は希望を込めて「ステップアップ研修」としている。「ファシリテーター養成講座」の３回目に地域住民役を別に募集していたが、「参加型学習体験講座」とし、次年度の「養成講座」につなげていきたい。また、「公民館等職員実践研修」の４回目は受講者の発表だが、別枠で「実践発表研修会」として募集をかけ、学びと交流をしっかりと確保したい。今年度のように名称変更とかQRコードをつけるなどの大きい変更はないが、取組から見えた課題を踏まえ来年度やっていきたい。</p>
<p>水津委員</p>	<p>「社会教育委員・担当者」のことは連携事業と聞いている。理事会の議題としてあげて、センターから説明してほしい。話は変わるが、県全体でコミュニティスクールをやっているが、事業全体が進んでいないのでは。話を聞けば成功事例も多いが、自分の現場はどうだろうと思う。本当にこれから大事ならば、目標に向かって１つになっていく形をとらないと市町村で温度差を生む。県社連の会議でもテーマを共有させてスタートできたかと思っている。</p>
<p>大野委員</p>	<p>「公民館等職員必要課題研修」は非常に面白い。今年度の地域防災と社会教育という切り口は新しいし、ニーズも高いと思う。研修で見えてきたこともあろうしテーマを深めていくということもできると思う。今回、テーマは変わるがいい意味でつなげたり深めたりしてほしい。</p>
<p>藤井社会教育主事</p>	<p>テーマは実態調査を参考にしている。地域防災にあっても平素からのつながりが大事だということを今年度押さえた。地域外に出られた方からの応援、今やっていることの整理、結びつけを大事にするということは、テーマが変わっても同じだと思う。</p>
<p>大地本委員</p>	<p>「必要課題研修」の学びを生かした実践を情報誌などに掲載してほしい。事例をつないでいくと面白いと思う。</p>
<p>久佐社会教育主事</p>	<p>地域防災は日頃の丁寧な関係が大切。そこを性急に地域課題解決に持っていくと社会教育ではなく地域振興的なものになる。今回、防災を取り上げたが防災のためだけの研修ではなく、日頃からかわりをどれだけ作って</p>

	<p>いくつかというところがベース。そこがしっかりしていると、課題が変わっても日頃の信頼関係だったり、地域のなかでの関係性づくりにつながっていったりすると思う。多様な課題を切り口として扱いながら、社会教育で大事なことは共通ではないのか、本質的なものを課題によって対応させていけばいいのではないかとスタッフで話している。</p>
岡本委員	<p>浜田に5月から帰ってきて、他の館の便りとかインスタグラムが今までと全く違う。どんな人だろうという人が「社会教育だより」にのっている。研修に来て高まっていくから公民館が輝いて見える。研修の有効性がそういうところにつながっていると思う。</p>
山根委員	<p>研修の流れから結果まで見えたら面白い。ちょっとしたことから変わった、ちょっと失敗した、みたいなことが記事になれば親近感がわいて、研修に出てみようという気になると思う。親近感がわく、ちょっとしたポイントを記事に反映させたら、よりつながると思う。</p>
山中委員長	<p>社会教育で一番大切なのはまず顔を知る。そしてつながって仲間になる。それが防災、地域づくり、地域振興、多世代間交流にもつながるだろう。どのジャンルでも顔見知り、よる、集うが基本だと思う。今日の話し合いでそのことを強く感じた。それぞれ得意分野で活躍している人が集まって地域のリーダーになっていく、その拠点が公民館であると再認識させていただいた。事務局にお返りする。</p>
【東西に分かれ グループワーク】	<p>「東部委員から出た主な意見」</p> <p><input type="checkbox"/> センターのつよみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村をこえて人をつなぐことができる。 ・施設と人材（社会教育主事）がそろっている。 ・企画し評価できる仕組み、役割がある。 ・東西にあり、県内の情報が集まる。 <p><input type="checkbox"/> 今後伸ばすべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS、Instagramによる発信。 ・各市町村の取組、活躍している人の情報収集と紹介。 ・遊びの要素を取り入れてほしい。 ・親近感のわく相談体制を。 ・情報の収集と提供。 ・大学との連携。

<p>【東西に分かれ グループワーク】</p>	<p>「西部委員から出た主な意見」</p> <p>□センターのつよみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの場を設定しネットワークを形成できる。 ・学びの場が出会いの場となる。 ・派遣社会教育主事や専門性のある人材とのつながり。 ・相談を受けてくれる。 <p>□今後伸ばすべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場に出かけての研修設定。 ・情報収集と提供のさらなる工夫。 (情報プラットフォーム、グループチャット等) ・市町村訪問。 ・学びの成果の発信。 ・派遣社会教育主事や市町村担当者との連携。
-----------------------------	---